

目次

(1) 学生の確保の見通しと取組状況	1
① 学生の確保の見通し	1
(ア) 定員設定の考え方	1
(イ) 定員充足の見込み	1
(ウ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
i) 統計データ分析	2
ii) 受験対象者へのアンケート結果分析	3
iii) 編入学学生確保の見通し	5
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	6
(ア) オープンキャンパス	6
(イ) 高校教員の招聘事業	6
(ウ) 高校長への表敬訪問及び教員による高校訪問	6
(エ) 出前授業・大学見学	7
(オ) 工学部パンフレット	7
(カ) SSH校や理数科設置校との連携による高大連携・接続	7
(2) 人材需要の動向等社会の要請	7
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	7
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠	8

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通しと取組状況

① 学生の確保の見通し

(ア) 定員設定の考え方

国立大学法人岩手大学（以下「本学」という。）が平成 28 年度に計画している全学改組において、文系学部（人文社会科学部、教育学部）の入学定員を 105 名減とする一方で、理工系強化の方針の下、現行の工学部（以下「本学部」という。）を、その主たる教育研究分野である工学分野の量的質的強化とともに、理学系分野の導入と工学分野との統合・融合による理工学分野の拡充により、イノベーションの根源である新原理、新材料、新機軸を産み出すとともに、その応用展開、さらには多機能化、統合化までの過程を教育研究の対象とする「理工学部」へ改組することを計画している。

改組後の理工学部の入学定員については、上述のような理工学部としての機能強化とそれに伴う教員配置数の増強等を勘案して増加の方向で検討した。その際、入学者確保という「入口」の観点と、地域社会や日本が必要とする理工系人材への需要という「出口」の観点から、妥当な入学定員をデータ等に基づき定量的に検討した。それぞれの詳細な検討結果については、以下の「(イ) 定員充足の見込み」及び「(2) 人材需要の動向等社会の要請」にて述べるが、その検討結果を踏まえ、入学者の質を維持しつつ長期にわたり安定的に志願者が確保可能であり、学部の理念を十分踏まえ、質を保証した学士課程教育を提供でき、かつ地域や社会の理工系人材需要に応えるものとして、入学定員を現行の 400 名に対して 40 名増の 440 名に設定した。なお、3 年次編入学定員は、現行通り 20 名のままとする。

(イ) 定員充足の見込み

定員充足の見込みを、近隣県等の人口動態調査や大学進学率の推移、岩手県内外の受験対象者へのアンケート調査等の客観的なデータを基に、さらに岩手大学の全学改革の方向性と岩手県が抱える事情等も考慮して分析した。

現在の工学部では、入学定員 400 名に対して推薦入試 I と個別学力入試（前期、後期）を実施している。年度による変動はあるが、志願倍率は平成 22 年度入試以降、2.3 倍～3.3 倍で推移している。改組後の理工学部の 440 名の定員については、以下の理由から十分に確保できると考えている。

- (a) 現行の工学部の強化やその特徴の明確化（表面科学、金属生産、通信、ロボット、航空宇宙、防災など）、高大接続活動、入試広報活動の強化で従来の本学部受験者層（主に岩手県、宮城県、青森県及び北海道を中心とする工学部進学希望者）から引き続き志願者を確保できる見込みであること。
- (b) 理学系分野の導入と理工学分野の拡充、2 つの特別プログラムの設定（募集人員は内数で 25 名）、及び多様な入試の実施により、従来の受験者層に加えて、理学系、教員養成系、生命系、医療系、薬学系、航空宇宙系等への進学を希望する優秀で熱意ある高校生を、東北地方だけでなく全国からも十分に確保出来る見込みであること

(根拠は後述)。

特に現在、理学系分野を学ぶことができる高等教育機関が岩手県内に存在しないことから、多くの理学系志望（医薬系等を含む）の高校生が存在するにも拘わらず（県内高校2年生理系クラス1,826名からの志望分野調査で、工学志望が10.6%、理学志望が7.1%、医歯薬志望が6.4%）、優秀な理工系人材が県外大学、また他分野（人文社会科学部、教育学部や県内外の医薬系）を志願する状況が続いている。そのため本学部を理工学部へ改組することで、より多くの理工系志望の高校生を本学に受入れることが可能となる。さらに経済的理由から、県内唯一の国立大学である本学への進学を希望する高校生は少なくなく、理工学部への改組への強い要望は入学定員増の要望と併せて県内の高校関係からも寄せられている。学士（理工学）の学位を授与する化学・生命理工学科、物理・材料理工学科は、理学・工学双方の素養と、両学問を統合・融合した理工学の幅広い学力と論理的な思考力を身に付けることをディプロマポリシーに掲げているが、理学系の標準的な科目を用意しており、多様な履修指導方法と適切な学修指導体制を整えることにより理学系を志向する学生の受け入れを可能にする。

＜資料＞（資料1：工学部の入試状況（過去5年間））

（資料2：定員設定と入試選抜方法）

（資料3：岩手県高等学校長協会からの工学部改組構想に対する要望書）

通常の学科・コースの中に、さらに高度な専門分野の知識、国際性やリーダーシップ、課題解決能力などの修得を目指した「特別プログラム」（「先端理工学特別プログラム」、「地域創生特別プログラム」）を設定する。この2つの特別プログラムのうち、「先端理工学特別プログラム(各学科5名の募集人員で最大15名の募集人員)」は、理工学分野又は工学分野に特に高い関心と知識を有する高校生を志願者として想定している。岩手県をはじめとする周辺県の教育委員会と高大接続について検討を開始しており、高大接続の取組を継続・強化すること、及びプログラムとしての特色と独自性を明確化することで、理工系に関心があり着実な学習に取り組んでいる高校生を一定数集めることが可能であると考えている。また、「地域創生特別プログラム<ものづくり系>（システム創成工学科：5名の募集人員）」は、ものづくりに高い関心と熱意を有する高校生を志願者として想定している。「地域創生特別プログラム<防災・まちづくり系>（システム創成工学科：5名の募集人員）」は、地域・社会づくりに高い関心があり、地域創生に繋がる防災・まちづくりに意欲のある高校生を、岩手県及び今後の巨大災害発生を想定して全国から広く集めることが可能であると考えている。

(ウ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

i) 統計データ分析

440名の入学定員に対する受験生確保の見込みについて、定量的な推定を行った。調

査対象は、過去の受験生の主たる出身地である東北・北海道（1道6県）である。人口動態調査によると、対象地区の18歳人口は今後減少し続け、第3期中期目標期間終了時（平成33年度末）には平成24年度の85%まで減少すると見込まれている（岩手県においても84%まで減少）。推定方法としては、以下のものを採用した。

- ① 対象地区の18歳人口動態及び、平成26年度時点での大学進学率を元に、大学進学者予定数 N_e を算定
- ② 本学工学部志願者数から、各県・道ごとに大学進学予定数中の本学工学部志願者の割合を求め、平成24～26年度の平均値（ R_a ）を算出
- ③ 上記の平均値 R_a を対象地区の大学進学予定者数 N_e に乗じ、平成28年度以降の岩手大学工学部への志願者数 N_t を推定
- ④ 新たな志願者層（主に理学部系志望）からの志願者数 N_s を、 N_t の1/8と見積る

● 新たな志願者層からの志願者数の推定方法

文部科学省学校基本調査をもとにした野村総研の資料では、平成20年度時点で理工系（理学部、工学部、理工学部）志望者の中の理学部系志望者は14%であり、理学部系と工学部系（工学部、理工学部）との重複率を10%と考えた場合、 $0.14 \times 0.9 = 0.126 \approx 1/8 = 0.125$ が工学部に対する理学部系志望割合と推定できる。

従って改組後の岩手大学理工学部の志望者は、 $N = (1 + 0.125) \times N_t = 1.125N_t$ と推定される。

このような推定の結果から、第3期中期目標・計画終了時点においても、2.5倍以上の志願倍率が確保できると推定した。この推定は、大学進学率（例えば、岩手県における4年制大学進学率が34%）が今後も現状のまま推移するという危険側の推定をしている。実際には、岩手県の大学進学率は全国的に見ても下位に位置し、今後景気の回復、及び人口減少により大学進学率は維持または微増すると予想できる。さらに、理学系学科の設置効果や魅力ある学科構成による倍率の維持、多様な入試方法や特別プログラムの設置により、志願者数の増加のみならず志願者の質の向上も期待できる。

<資料>（資料4：第3期中期目標期間終了時における本学理工学部への志願者数推定）

ii) 受験対象者へのアンケート結果分析

平成28年度の改組時に受験を迎える岩手県内進学校の理系進学を希望する高校生1,826名と、北海道や東北、中部など県外の理系進学を希望する高校生1,228名に対し、理工学部設置についてのアンケート調査を実施した（資料5）。

その結果、

- 県内の調査対象者1,826名のうち、岩手大学を受験したい生徒が858名（47%）で、そのうちの約7割の591名が理工学部を第1志望としており、県内高校生の理工

学志向が高いことが分かる。特に理学系（生命、数理・物理）の人気の高い。実際に受験を希望している学生の絶対数は、コースの中では機械科学、知能・メディア情報、化学と続くが、想定する募集人員数との比率では、生命コースの率が最も多く、数理・物理コース、知能・メディア情報がそれに続くことが分かった。本学理工学部の魅力を感じ志望先の1つに考えている進学校の高校生が大勢いることから、志願者の安定的確保が十分可能であることが分かる。

➤ 農学部希望を含む岩手大学志望の理系高校生 858 名のアンケートの詳細分析から、以下の結果が得られた。

1. 化学・生命理工学科（入学定員 90 名）に対して第 1 志望は 144 名、第 2 志望は 123 名であり、県内の受験者からだけでも定員分を上回る志願者を確保可能である。
2. 物理・材料理工学科（入学定員 80 名）に対して第 1 志望は 120 名、第 2 志望は 130 名であり、県内の受験者からだけでも定員分を上回る志願者を確保可能である。
3. システム創成工学科（入学定員 270 名）に対して第 1 志望は 327 名、第 2 志望は 275 名であり、県内の受験者からだけでも定員分を上回る志願者を確保可能である。

➤ 理工学部のそれぞれのコースを第 1 志望に選んだ高校生の興味をもつ学問分野に関するクロス分析から、以下の結果が得られた。

1. 教員養成・教育学に興味をもつ高校生（標本数 186 名）の 22.0%（41 名）は物理・材料理工学科に、19.4%（36 名）はシステム創成工学科を第 1 志望に選んでいる。
2. 医・歯・薬学に興味を持つ高校生（標本数 441 名）の 29.3%（129 名）は化学・生命理工学科を第 1 志望に選んでいる。
3. 総合科学に興味を持つ高校生（標本数 43 名）の 34.9%（15 名）は化学・生命理工学科を第 1 志望に選んでいる。
4. 農・水産学に興味を持つ高校生（標本数 254 名）の約 22%（56 名）は理工学部を第 1 志望に選んでいる。

以上の結果から、理学系分野を取り込んだ理工学部や理工学分野を扱う学科の設置により、理・工以外の学問分野に興味を持つ県内の高校生が、新しい学部にとっての受験層となり得ることが分かり、改組によって受験層の拡大が可能であることが確認できた。

- また、県外の調査対象者 1,228 名のうち、約 4 割が本学理工学部の魅力を感じており、志望先の 1 つに考えていることが分かった。このように、平成 28 年度の改組時に受験を迎える受験生に対するアンケート結果からも、本学理工学部の改組への理解、特に理学系学科・コースの設置に対する期待が大きいことが分かった。特に

北海道地区については、過去数年間、積極的に入試広報活動を展開していること、総合大学への希望者が多いこと、さらに函館までの新幹線延伸が 2015 年度末に予定されていることから、北海道地区からの志願者数が十分に見込まれる。なお、札幌には個別学力試験場を前・後期とも設置していることもあり、北海道からの志願者数は堅調な数字を示している（過去の平均志願者数は約 72 名）。

- 今回の調査で愛知県からの理工学部志願者の存在は心強い。工業県である愛知県には、個別学力試験会場を工学部として設置しているが、地元の要望として愛知県への就職（特にトヨタ系）を求める声が少なくない。幸い、岩手県や宮城県では自動車の生産及び開発の拠点化を進めており、東北地方の大学の中では自動車系の研究開発を積極的に行っており、また本学部には航空宇宙の研究にも特色があることから、今後東海地区における入試広報活動を一層強化することにより、愛知県を中心として東海地方からの相当数の志願者確保も可能である。

上記の分析に加え、

- 特に東北地方の人口バッファーであり、人口減少幅が小さく最大の 18 歳人口を擁する宮城県では、過去数年間大学進学率が上昇傾向にあり、かつ地元残留率が約 58% と高い（リクルート進学総研マーケットレポート 2014 August）。今後景気の回復や自動車を中心とした産業の拠点形成などにより大学進学率の増加が見込まれることから、宮城県からの志願者は上述の危険側推定値を十分に上回ると考えられる。
- 今回調査した福島県、栃木県にも潜在的な需要がある。両県とも人口がほぼ 200 万人と宮城県に次ぐ数字であるにも関わらず本学部への志願者数は宮城県の 1/10 にも満たない。しかし、新幹線沿線で盛岡への交通の便が良いこと、それぞれの県の国公立大学にはない特徴を有する理学系分野を擁する理工学部となることから、適切な入試広報活動を行うことで十分に両県からも多くの志願者を獲得可能である。など、志願者数の安定確保にプラスの要因も少なくはない。

<資料>（資料 5：岩手県内外の高校 2 年生へのアンケート結果）

iii) 編入学学生確保の見通し

本学工学部では、現在 20 名の編入学定員がある。入試方法は平成 25 年度入試までは推薦入試と一般入試で編入学学生を選抜していたが、平成 26 年度入試からは一般入試のみで選抜している。これまでは特別な入試広報活動は行ってこなかったが、毎年定員以上の志願者数があり、今後東北・北海道地区及び北関東の高専等への入試広報活動を展開することで、高い能力を有する編入学学生を確保できる見通しである。

<資料>（資料 6：3 年次編入学試験状況（過去 5 年間及び改組前 1 年間））

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学部では、学部長直轄の入試・広報特別対策室を設置し、学生確保に向けて様々な取組行ってきた。今後も継続的に取組を実施する。

(ア) オープンキャンパス

本学では例年 8 月上旬と 10 月下旬にオープンキャンパスを実施している。その中で本学部では、身近に大学の研究の様子や大学生活を紹介するため、高校生やその保護者に全ての研究室を公開し、工学部の魅力を伝えている。例年約 2,600 名の高校生が、岩手県内をはじめ東北地区から参加している。工学部では学部紹介、学科紹介、進路相談会、模擬講義等を実施し、工学部の宣伝を行っている。アンケート結果からも、オープンキャンパスが大学を身近に知る機会となっていることが分かる。また、高校教員や保護者を対象とした進路説明会も実施している。

<資料> (資料 7 : 過去 5 年間のオープンキャンパス参加者数)

(イ) 高校教員の招聘事業

平成 21 年度から開始している本事業では、8 月上旬のオープンキャンパスに合わせて、北海道や中部地区を含む県外の高校教員 30 名～60 名程度を本学部へ招待し、実際に大学構内と工学部を見学してもらいながら、本学工学部の良さをアピールしている。オープンキャンパス前日に市内のホテルで工学部の説明会を開催し、教育、研究、社会貢献、入試、就職など、工学部全般の概要の説明と質疑応答を実施している。オープンキャンパス当日は、工学部構内の研究施設や研究室を見学していただいている。研究室の見学では最新の研究内容について大学生が説明する様子などから、学生の成長ぶりを実感していただいている。また、出身校の学生との個別に懇談する時間も設け、本学での学生生活について学生を通して知っていただいている。

<資料> (資料 8 : 岩手大学工学部招聘事業実施状況 (過去 5 年間))

(ウ) 高校長への表敬訪問及び教員による高校訪問

平成 21 年度から開始している本事業では、5～6 月にかけて、学部長、副学部長らが東北地区の主要な高校を表敬訪問し、校長先生に工学部の説明を行ったり、高校側から大学側への要望を伺ったりしている。入試、就職先、教育内容などについての意見交換で得られた情報は、学部の教育や入試についての計画を策定する際に役立てている。

また、入試・広報特別対策室が企画する高校訪問では、相当数の工学部教員が、岩手県内の他、北海道から名古屋地区までの全国の高校を訪問し、進路指導担当教諭に工学部の概要、入試制度、学生生活、就職状況などを説明している。また、高

校における授業実施状況、学生の理解度、入試広報のあり方など多面的な意見交換も行っている。

＜資料＞（資料 9：岩手大学工学部高校表敬訪問及び高校 P R 訪問の実施状況（過去 5 年間））

（エ）出前授業・大学見学

全国の高校を対象に、出前授業（大学教員が高校等へ出向き、模擬授業などを行う）や大学見学の要請に対して可能な限り全て対応している。出前講義は、過去 5 年間で対応件数 195 件、訪問校数 187 校、対応教員数 248 人、受講者数 10,000 人以上という規模に達している。大学見学についても、対応件数 140 件、受入校数 136 校、受入生徒数 4,300 人となっている。大学の HP には出前授業・大学見学の申込のサイトがあり、高校側の希望に合わせて教員を講師として派遣し、大学での説明、引率を行っている。原則、土日も対応しており、出前講義については、原則として全ての経費は工学部が全額負担している。

＜資料＞（資料 10：出前講義実施状況及び大学訪問対応状況（過去 5 年間））

（オ）工学部パンフレット

工学部のパンフレットには学部や学科の紹介の他、工学部全教員の研究テーマを写真入りで記載しており、高校側からは大学の研究内容が身近に感じられると好評である。

（カ）SSH 校や理数科設置校との連携による高大連携・接続

岩手県内の SSH 実施校（水沢高校、盛岡第三高校、釜石高校）と盛岡第一高校理数科の課題学習に協力している。また、青森県と秋田県の SSH 実施校とも協力関係があり、教員の派遣や実習場所の提供、課題研究の実施など、高大連携の活動を継続的に実施している。また、先端理工学特別プログラムへの志願者数を調査することを目的に、岩手県、青森県、宮城県及び秋田県の SSH 実施校全 11 校へのアンケートを行っており、その結果、少なくとも 100 名以上の潜在的志願者がいることが判明している。

＜資料＞（資料 11：先端理工学特別プログラムに関する選抜方法等に関するアンケートとその結果）

（2）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

創立 75 周年を迎えた本学工学部は、これまでに岩手の地において数多くの卒業生を東北地方はもとより日本全国、世界中へ輩出するとともに、金属生産、表面化学、金型製造などをはじめとする「ものづくり」分野で日本における中心的教育研究機関として活動を行ってきた。また、超伝導、航空宇宙、生体、防災、デザイン・メディアなど特色ある研究活動を展開し、人材育成、産業創成・育成、さらには広範な地域貢献、高大連携などに努めてきた。卒業生は、民間企業をはじめ、官公庁（都道府県、市町村）、試験研究機関、高等学校教員などの多分野にわたっている。また、約 50%の学生は大学院に進学している。過去 3 年間における各学科への求人数は年平均 1,429 人（求人倍率は約 3.6 倍）、うち県内企業からの平均求人数は 59 名であり、県内外とも非常に多数の求人が本学部に寄せられている。なお、資料中の数字は学科が直接受けた企業数であり、本学就職担当部署であるキャリア支援課が受けた企業数は、求人数を学部別に集計していないため含まれていない。従って、県内企業からの求人数はさらに多いと考えてよい。この高い求人数の効果もあって、過去 3 年間における就職希望者の就業率は 95.3%を達成している。就職先企業の主な業種は化学石油製造業、電気電子製造業、情報通信業、機械製造業、建設業となっている。なお、公務員・教員としての就職者数は 3 年間の平均で約 30 名である。

上記のように、出口面でも強みを有する工学部であるが、変貌する社会からの要請に的確に対応するため、工学分野の量的質的強化に加え、イノベーションの根幹をなす新原理、新素材等を扱う理学分野の導入と工学分野との統合・融合による理工学分野の拡充によりイノベーション創出及びグローバル理工系人材育成に向けての機能強化を図るため、現在の工学部を理工学部へ改組する。

＜資料＞（資料 1 2：工学部卒業生の過去 5 年間の進路状況）

（資料 1 3：過去 3 年間の求人・就職先一覧）

（資料 1 4：現行学科求人受付企業数（過去 3 年概数））

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠

今回の改組計画を策定するにあたり、地域・県内産業界及び、全国の就職実績企業へのアンケート調査を実施した。そこでは、理工学部への改組計画全体に対する評価、卒業生採用の意欲、理工系人材の不足状況や理工学部への期待度等を調査した。その結果に本学部の過去数年間の進路状況、求人状況等を加味して、今回の改組計画が社会的、地域的な人材需要の動向等を十分に踏まえたものであることを以下に示す。

東日本大震災及び巨大津波による未曾有の被害を受け人口流出、雇用喪失など地域減退の危機状況に追い込まれている岩手を含む東北地方にとって、震災後の厳しい現状から脱却し、持続可能で安全安心な社会の実現や、新たな知や価値、産業を創成・発信し、地域における優秀な人材を確保するためにも、地域の中核大学として理工系人材育成の

拠点である本学部には質的かつ量的な変革が必要とされている。

過去3年間本学部の平均卒業生数約436名、就職率は95.4%、県内就職率は15%程度（平均約65名）であるが、COC事業（文部科学省 地（知）の拠点形成事業：平成25年度～）とも連携して県内就職率の向上に努力している。しかし、仮に県内就職率が20%程度まで向上したとしても、最大約22人増に留まることから、現在の400名入学定員のままでは後述の地元民間企業の人材需要には応えられない。また、岩手県を含む東北地方がこれから目指すべき方向は、生産拠点としての立場だけではなく、新たな価値を生み出す創造の拠点形成である。その実現のためにも研究開発型人材を岩手県で養成し、地域に輩出することは重要であり、「理工学部」への改組と定員増の必要性がある。

上述のように、過去3年間の平均求人数は1,430名程度であり、求人数が定員440名の理工学部になっても変化しないと仮定しても、求人倍率は約3.3倍と高い数字であり、卒業生の就職口は十分に確保可能であると判断できる。求人多くは県外企業からであるが、県内企業からの平均求人数は年平均約60名（前出）を下ることはない。この数字は県内就職者数（公務員、大学等団体職員等を含む）65名にほぼ等しい。県内就職者の半数程度（30名）が公務員等としての就職であることから、県内企業は少なくとも30名程度理工系人材を確保できていないことになる。岩手県近隣の企業をも含めると、理工系人材の絶対的な不足数はさらに増えると考えられることから、県内就職率を仮に20%にまで上げられたとしても、入学定員400名のままでは22名程度の確保に留まる。一方、入学定員を更に40名に増やすことで、単純計算（40名×就職率0.2）では8名更に増員が見込めることから、本学部における入学定員数の増加は、岩手県及びその周辺県の企業での理工系人材の慢性的な未充足状態感の解消という観点で重要であると言える。

さて、上記の状況をさらに定量的に検討してみる。この目的のため、地域・県内産業界に対して、いわて工業クラブに所属する企業・団体を中心にアンケートを実施した結果、79の企業等から回答を得た。県内の調査対象企業の88.6%が理工学部への改組を評価し、67.0%の企業が理工学部卒業生の採用に強い関心を示し、採用可能性まで含めると94%以上の地元企業が好意的な反応を示している。また、62%の企業が理工学の学位を有する卒業生の採用に意欲を示しており、採用可能性まで含めると94%の企業が好意的な反応を示している。全国規模で見てもその傾向は同じであり、今回の全調査対象企業（回答は187社）は、85%が理工学部への改組を評価し、79.1%の企業が理工学部卒業生の採用に強い関心を示し、採用可能性まで含めると96%以上の企業が採用について前向きな回答を寄せている。以上のように理工学部への改組については十分に高い評価を得ている。理工学の学位を有する卒業生（170名）の就職については、仮に卒業生全員が就職を希望したとしても、全調査対象企業で採用の可能性のあることになる（187社×0.96=180社）。実際には、40～50%の卒業生が大学に進学すると見込まれるので、実際の理工学の学位を有する就職希望者数は約70～85名であり、県内企業だけでも希望者の大半が受入可能であることが分かる。以上のように、これまでの工学部の伝統を受

け継いで理工学部での出口には全く問題はない。

求人という観点で地域の企業からの理工学部改組への期待を分析する。まず、本学部の過去5年間の進路状況を見ると、景気に起因する年ごとの変動は認められるものの、大学院進学者と就職者が半々で推移していることが分かる。就職者の内、県内就職者の割合は、平成21、22年度は10%程度であったが、その後15%前後にまで上昇している。しかし、その内訳を見ると、資料にも現れているように、民間企業への就職数は十分と言えず、相当数は震災復興等で需要が高まっている地方公務員や団体職員として就職している。

このような状況を踏まえて企業向けへのアンケートを見ると、県内企業の理工系人材に対する渴望感が読み取れる。即ち、県内企業の47%程度（回答数44社）、全調査企業の38%程度（回答数102社）が理工系人材を十分には採用できていないと回答している。これを反映して、現行の400名の入学定員に対して1割以上の入学定員増を望む企業が、岩手県内企業の64.5%（理由は「地域活性化のため」が35.8%、「自社人材候補として」が30.8%、「日本経済のため」が24.5%）、全調査対象企業の52.5%（理由は「自社人材候補として」が36.5%、「日本経済のため」が31.7%、「地域活性化のため」が24%）と、入学定員増を要望している。上述のように440名の定員の場合、単純計算で約90名の地元就職者が見込まれる。平均求人数や県内就職者数の概数である60名に対して約30名の増加が推定でき、慢性的な理工系人材の不足状態の緩和にも貢献可能である。また、前出のように岩手県高等学校校長協会からも入学定員増の要望書が寄せられている。

以上をまとめると、

- 入学定員を現行の工学部400名から40名増することについては、地域企業や岩手県の高校関係者の強い要望とも合致している。
- 現行の工学部への求人数は入学定員の3倍以上であり、440名の卒業生数になっても約3倍程度の高い求人倍率を維持可能なこと。
- 理工学の学位を有する卒業生に対する岩手県内企業や就職実績企業の求人意欲は十分に高く、440名の入学定員に対する就職口確保には全く問題はないことが示された。さらに理工学系の卒業生に対しても多くの期待が寄せられている。
- 440名への入学定員増とともに地元就職率向上の取組を更に進めていくことで、岩手県内をはじめ周辺地域での理工系人材不足緩和に貢献可能であることが分かった。

さらに、地域企業トップ等への聞き取り調査を実施し、「従前の工学分野の人材育成力強化に加えて、イノベーション創出、研究開発型の人材養成が岩手県をはじめ東北地方に必要であるとの考えから、理学面の教育内容を拡充することで、理学的基礎と工学的課題解決能力を身につけた技術者、研究者（学位は「理工学」）育成力強化を計画」していることへのコメントを頂いている。それによれば、

- 大いに評価する

- 地方に新しい人の流れをつくり、その流れを企業が受け止め、一体となって新しい仕事をつくり出す役割を期待しています。それが、将来の地方の人口急減対策の一つの歯止めだとしなければならない。(株式会社ミクニ盛岡事業所長)
- 昨今、自動車関連製品開発においてモデルベースデザイン (MBD) 、各種シミュレーションによる検証、開発のフロントローディング化がますます進んでおります。そのような状況の中で、ただシミュレーションを行うのではなく、各々の製品の物理現象を捉え、その上で数式化しシミュレーションできるといった物理的に思考できる人材が現在は少ないと、社内で話していたところです。社内でもスキルアップして参りますが、岩手大学様におかれましてもこのような人材の育成を期待したいところです。(株式会社ミクニグループリーダー)
- キャッチアップして創り上げた日本の技術力をキャッチアップしてくる他国に打ち勝つ為にも、技術と人材育成が大事である(理工出身)。(NS テック スエンジ釜石 代表取締役社長)
- おおよそ評価する
 - ものづくり人材の育成には、工学的能力と共に、メカニズムを理解する為の理学的素養が必要と考える。(トヨタ自動車東日本株式会社執行役員岩手工場長)
 - 理工学系大卒者には、将来的に技術開発研究者としての素養知識のみならず、企業や業界をリードする技術管理・経営者の素地も要求されてきます。企業や業界の中で活躍する人材を継続的に育成する意味では、業界事情やマネジメント、そして工場経営の基礎知識もあった方が良くと思います。また、グローバル化と言われて久しい中、英語教育の強化も望まれると思います。これからも岩手大学の人材育成に期待致します。(盛岡セイコー工業株式会社代表取締役社長)

など、改組の方向性については岩手県の企業トップ等の方々にも十分ご理解頂けるものになっていると判断できる。

以上の分析から、今回の改組計画が社会的、地域的な人材需要の動向等を十分に踏まえたものであることが確認された。

- ＜資料＞(資料 15 : 改組計画に対する県内企業及び全国の企業へのアンケート結果)
 (資料 16 : 県内企業、全国の企業の理工系人材不足の状況及び理工学部への定員増に対する要望)
 (資料 17 : 本学におけるCOC事業の取組概要)

資料 目次

資料 1 : 工学部の入試状況 (過去 5 年間)	12
資料 2 : 定員設定と入試選抜方法	13
資料 3 : 岩手県高等学校長協会からの工学部改組構想に対する要望書	14
資料 4 : 第 3 期中期目標期間終了時における本学理工学部への志願者数推定	15
資料 5 : 岩手県内外の高校 2 年生へのアンケート結果	16
資料 6 : 3 年次編入学試験状況 (過去 5 年間及び改組前 1 年間)	27
資料 7 : 過去 5 年間のオープンキャンパス参加者数	28
資料 8 : 岩手大学工学部招聘事業実施状況 (過去 5 年間)	29
資料 9 : 岩手大学工学部高校表敬訪問及び高校 P R 訪問の実施状況 (過去 5 年間)	30
資料 1 0 : 出前講義実施状況及び大学訪問対応状況 (過去 5 年間)	31
資料 1 1 : 先端理工学特別プログラムに関する選抜方法等に関するアンケート とその結果	32
資料 1 2 : 工学部卒業生の過去 5 年間の進路状況	33
資料 1 3 : 過去 3 年間の求人・就職先一覧	34
資料 1 4 : 現行学科求人受付企業数 (過去 3 年概数)	37
資料 1 5 : 改組計画に対する県内企業及び全国の企業へのアンケート結果	38
資料 1 6 : 県内企業、全国の企業の理工系人材不足の状況及び理工学部への 定員増に対する要望	40
資料 1 7 : 本学における C O C 事業の取組概要	47

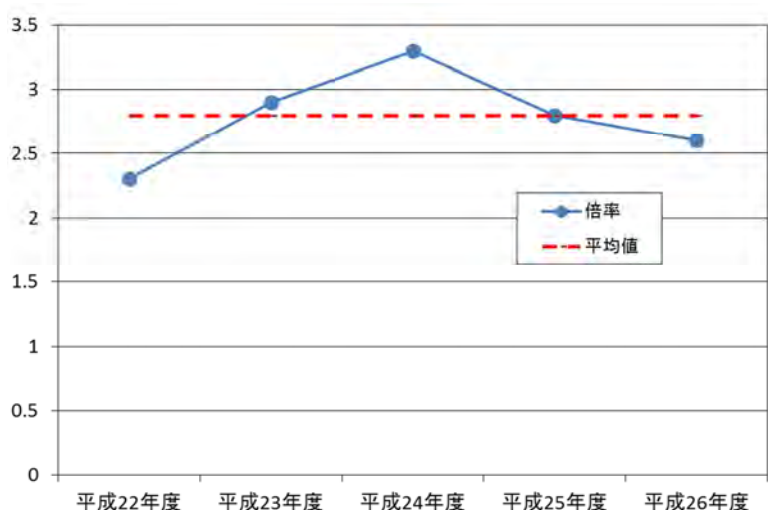
資料1 工学部の入試状況（過去5年間）

岩手大学工学部入試状況（学科別過去5年間）

学科名	入学定員	平成22年度				平成23年度				平成24年度			
		志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
応用化学・生命工学科	75	196	79	2.6	105.3%	239	84	3.2	112.0%	254	81	3.4	108.0%
マテリアル工学科	60	147	65	2.5	108.3%	156	70	2.6	116.7%	260	65	4.3	108.3%
電気電子・情報システム工学科	120	253	125	2.1	104.2%	357	145	3.0	120.8%	362	130	3.0	108.3%
機械システム工学科	80	172	84	2.2	105.0%	231	89	2.9	111.3%	231	82	2.9	102.5%
社会環境工学科	65	167	67	2.6	103.1%	165	70	2.5	107.7%	208	74	3.2	113.8%
合計	400	935	420	2.3	105.0%	1,148	458	2.9	114.5%	1,315	432	3.3	108.0%

学科名	入学定員	平成25年度				平成26年度				5カ年平均			
		志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
応用化学・生命工学科	75	222	81	3.0	108.0%	177	78	2.4	104.0%	218	81	2.9	107.5%
マテリアル工学科	60	162	67	2.7	111.7%	145	63	2.4	105.0%	174	66	2.9	110.0%
電気電子・情報システム工学科	120	305	126	2.5	105.0%	333	127	2.8	105.8%	322	131	2.7	108.8%
機械システム工学科	80	243	86	3.0	107.5%	204	88	2.6	110.0%	216	86	2.7	107.3%
社会環境工学科	65	194	67	3.0	103.1%	195	67	3.0	103.1%	186	69	2.9	106.2%
合計	400	1,126	427	2.8	106.8%	1,054	423	2.6	105.8%	1,116	432	2.8	108.0%

※私費外国人留学生を含む。



学部志願者倍率の5年間の推移

資料2 定員設定と入試選抜方法

定員設定と入試選抜方法

区分	推薦入試	一般前期試験	一般後期試験	A〇入試	入学定員 合計
化学・生命理工学科	13	55	17	5	90
物理・材料理工学科	11	49	15	5	80
システム創成工学科	47	163	45	15	270
計	71	267	77	25	440

資料3 岩手県高等学校長協会からの工学部改組構想に対する要望書

平成26年12月25日

国立大学法人岩手大学
学長代行 西谷 泰昭 殿

岩手県高等学校長協会
会長 高橋 廣至



岩手大学工学部改組構想に関する要望書

日頃より、本県高等学校の生徒並びに進学した高等学校卒業生に対しまして、ご支援とご指導を賜り、誠にありがとうございます。
この度の貴学工学部改組構想について、下記のとおり強く要望させていただきます。
つきましては、特段のご尽力をお願いいたします。

記

1. 理工学部並びに理学系学科を設置すること。

県内に理学系を志望する生徒は数多くおりますが、本県に理学系の大学は設置されておらず、理学系を志望する生徒は、県外の理学系学部・学科を有する大学に進学するか、関連の薄い学部・学科に進学するか、進学を断念するかの選択しかない状況にあります。

構想では、工学部を理工学部改編し、これまでの工学系に加え、本県にこれまでなかった理学系の教育も行う学科の設置が盛り込まれており、地元で学べる環境が整うことで生徒の進路選択の拡大につながります。

また、県内の理数系教育を担う高等学校教員の資質向上と、優秀な理数系高等学校教員を地元の国立大学から採用するには、構想中の理工学部理学系学科が設置されることで、密接な連携のもと長期的な教員教育と教員志望の人材発掘・養成が大いに期待されます。

是非、理工学部並びに理学系学科設置の実現をお願いいたします。

2. 理工学部の入学定員を拡充すること。

構想における入学定員は、国が示した理工系人材育成強化の方針を反映されてのことと推察しますが、文系学部で減、理系学部で増の内容となっており、大学全体では相当数の削減となっております。

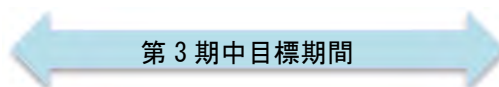
本県の大学進学率は全国において下位に位置し、地元にある国立大学の入学定員削減は、県内の厳しい経済状況を踏まえ、さらに大学進学率低下を招く可能性が危惧されます。

貴学は本県の高等教育機関の中核として、産業の振興、文化の向上などに貢献する優れた人材を県内に多数輩出されており、改組後においても、その責務を果たすべく十分な入学定員を持つことを切望するものですが、とりわけ県下の生徒が最も多く志願し、また地元の産業界にとっても重要な工学部の定員確保、増員は岩手県高等学校長協会としても切なる願いです。特に理学系分野を取り入れた理工学部へ改編することで、より多くの生徒が同学部を志望することは想像に難しくなく、かれらの夢を叶えさせるために現行よりも多い入学定員が強く望まれます。

是非、理工学部の入学定員拡充の実現をお願いいたします。

資料4 第3期中期目標期間終了時における本学理工学部への志願者数推定

年度	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年
主要地区		1,201	1,044	939	1,017	993	997	968	961	953	924
他地区(8%)		96	84	75	81	79	80	77	77	76	74
工学系合計		1,297	1,128	1,014	1,098	1,073	1,076	1,045	1,038	1,030	998
理学系推定(工学部の1/8)						134	135	131	130	129	125
岩手大学志願者(推定値)						1207	1211	1176	1168	1159	1123
倍率(400/440人)		3.26	2.78	2.60		2.74	2.75	2.67	2.66	2.63	2.55
青森(34%)	14,707	14,576	14,722	13,957	13,817	13,314	13,256	12,677	12,468	12,395	11,940
大学進学者数	5,000	4,956	5,005	4,745	4,698	4,527	4,507	4,310	4,239	4,214	4,060
岩手大学工学部志望者数		218	148	117	154	148	148	141	139	138	133
割合[%]		4.4	2.96	2.47	3.28	3.28	3.28	3.28	3.28	3.28	3.28
岩手(34%)	13,970	13,678	13,748	12,885	12,714	12,377	12,530	12,095	12,099	11,943	11,451
大学進学者数		4,651	4,674	4,381	4,323	4,208	4,260	4,112	4,114	4,061	3,893
岩手大学工学部志望者数		495	451	397	423	412	417	402	402	397	381
割合[%]		10.64	9.65	9.06	9.78	9.78	9.78	9.78	9.78	9.78	9.78
宮城(44%)	23,038	22,092	22,797	22,003	22,019	21,780	21,852	21,571	21,538	21,390	21,085
大学進学者数	10,137	9,720	10,031	9,681	9,688	9,583	9,615	9,491	9,477	9,412	9,277
岩手大学工学部志望者数		280	308	255	277	274	275	271	271	269	265
割合[%]		2.88	3.07	2.63	2.86	2.86	2.86	2.86	2.86	2.86	2.86
秋田(36%)	10,860	10,437	10,866	10,021	9,782	9,583	9,303	9,121	8,708	8,608	8,294
大学進学者数	3,910	3,757	3,912	3,608	3,522	3,450	3,349	3,284	3,135	3,099	2,986
岩手大学工学部志望者数		79	56	59	61	59	58	56	54	53	51
割合[%]		2.1	1.43	1.64	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72
山形(38%)	12,094	11,841	12,064	11,343	11,413	10,977	10,850	10,687	10,637	10,625	10,376
大学進学者数	4,596	4,500	4,584	4,310	4,337	4,171	4,123	4,061	4,042	4,038	3,943
岩手大学工学部志望者数		27	7	8	13	13	13	13	13	13	12
割合[%]		0.6	0.15	0.19	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31
福島(37%)	22,333	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782	18,915	18,789	18,436	17,539
大学進学者数	8,263	8,069	8,114	7,728	7,481	7,188	7,319	6,999	6,952	6,821	6,489
岩手大学工学部志望者数		23	25	16	20	19	20	19	19	18	18
割合[%]		0.29	0.31	0.21	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27
北海道(34%)		52,999	51,359	48,781	48,846	47,965	47,575	45,943	45,441	45,904	45,105
大学進学者数		19,610	19,003	18,049	18,073	17,747	17,603	16,999	16,813	16,984	16,689
岩手大学工学部志望者数		79	49	87	69	67	67	65	64	65	63
割合[%]		0.4	0.26	0.48	0.38	0.38	0.38	0.38	0.38	0.38	0.38

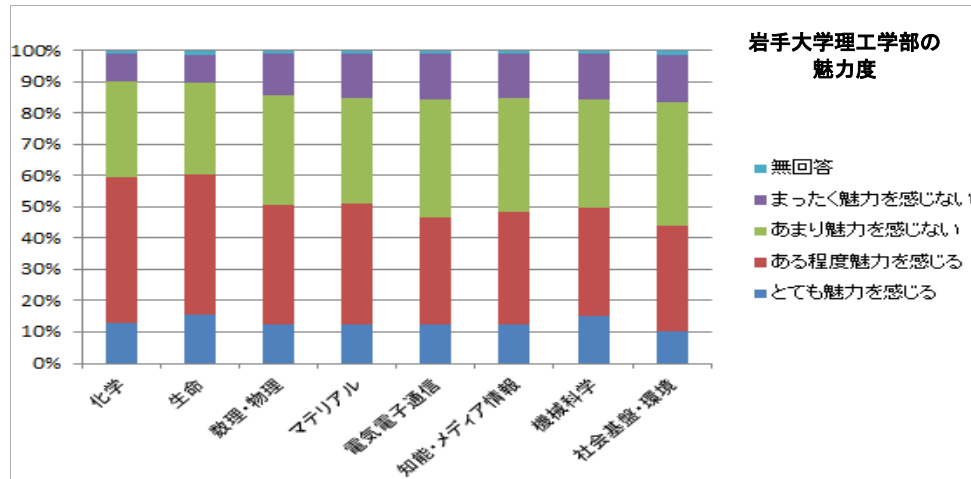
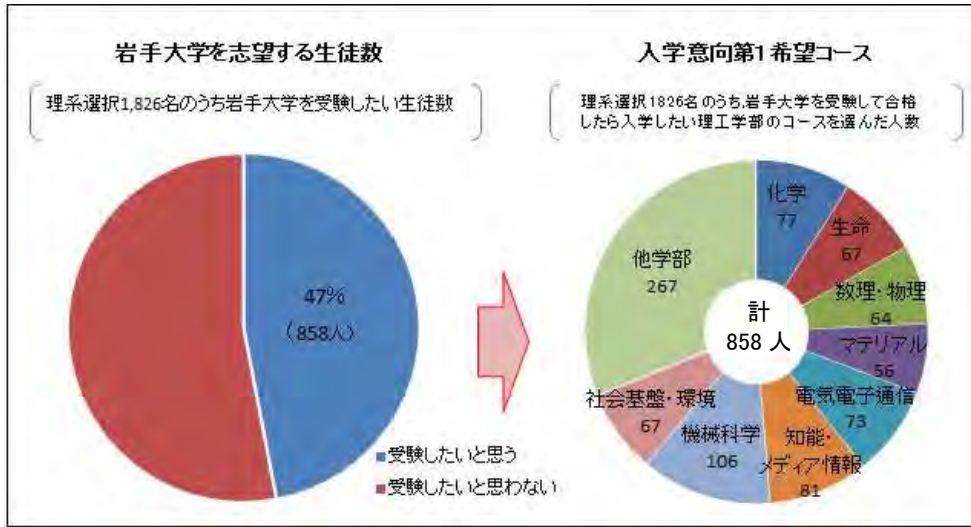


【補足】

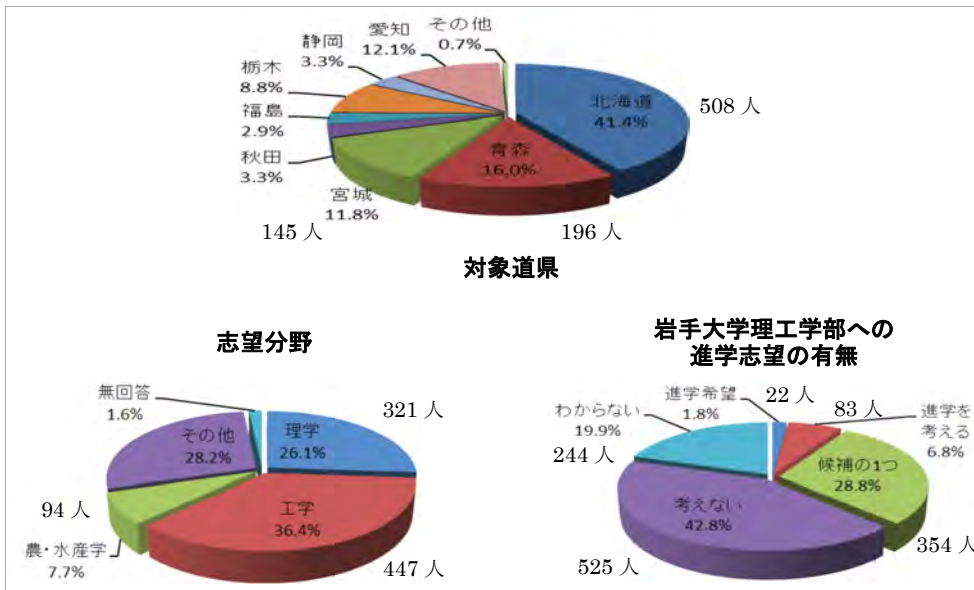
- ◇ 主要地区は、東北・北海道(1道6県)を表す。
- ◇ 主要地区の数値は、主要地区の岩手大学工学部志願者数の合計を表す。
- ◇ 「地域名(〇〇%)」の隣の数値は各地域における18歳人口動向を表し、括弧内の「〇〇%」は平成26年度時点での大学進学率を表す。

資料5 岩手県内外の高校2年生へのアンケート結果

岩手県内理系2年生（1,826名）へのアンケート



岩手県外理系2年生（1,228名）へのアンケート



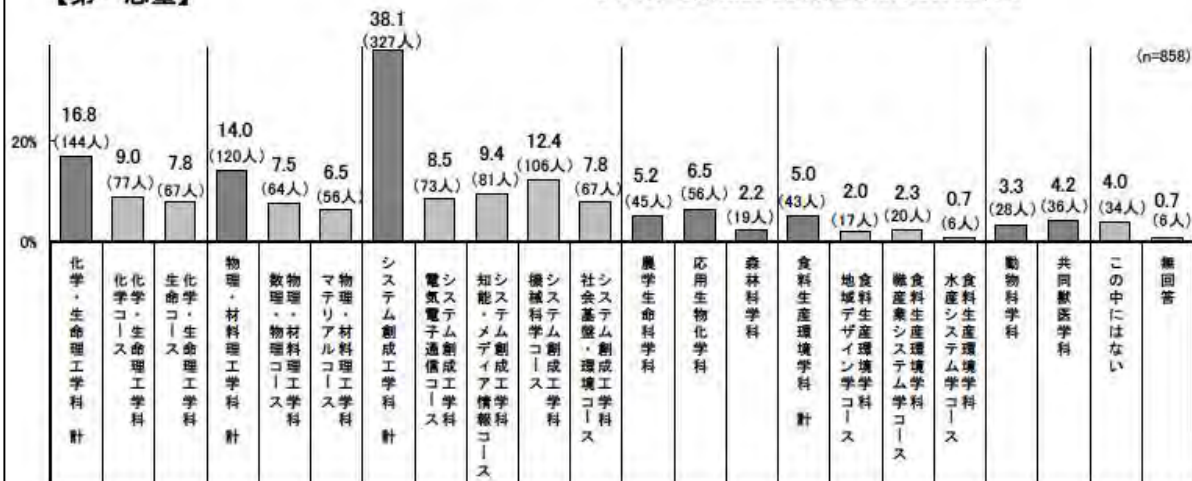
岩手県内の高校2年生へのアンケート結果に見る理工学部志望状況

■各学科・コースへの入学意向

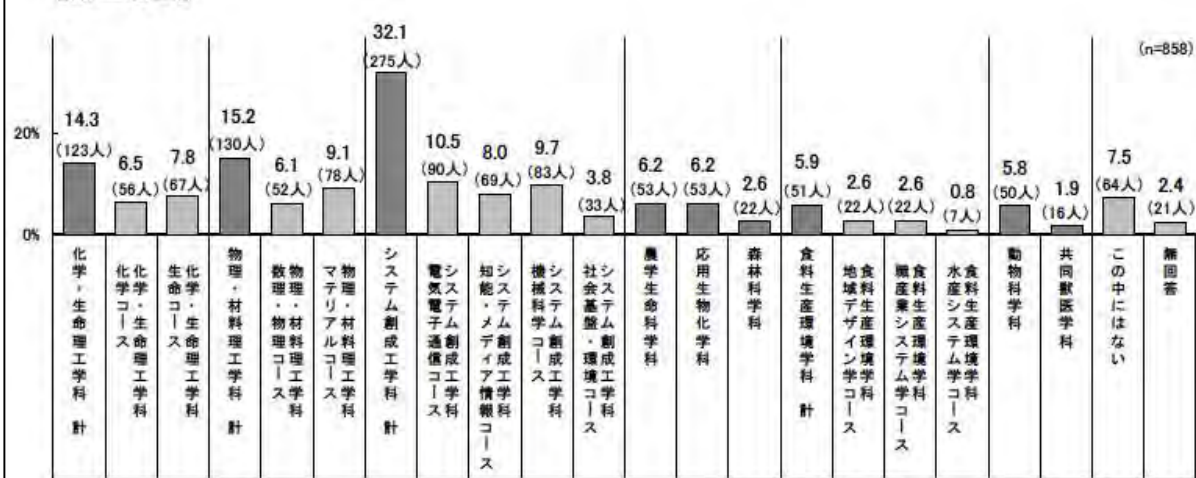
Q5.あなたは、岩手大学を受験して合格したとしたら、どの学部・学科・コースに入学したいですか。
第二希望までお答えください。(入学したい学科・コースがない場合は、「ない」に○をつけてください)

【第一志望】

※Q4の「受験したいと思う」と答えた858人の回答



【第二志望】



岩手県内の高校2年生へのアンケート結果に見る理工学部志望者の興味分野

12. 入学意向学部・学科・コース(第一希望)【理系】(Q5. 1)

		標本数	化学・生命理工学科計	化学・生命理工学科 化学コース	化学・生命理工学科 生命コース	物理・材料理工学科計	理・物理・材料理工学科 物理・物理コース	テリアルコース	システム創成理工学科計	気電子通信理工学科	システム創成理工学科 能・メディア情報コース	システム創成理工学科 機械コース	会基盤・環境コース	農学生命科学科
上段: % 下段: 件数														
全体		1,826	16.5	6.8	9.7	11.7	7.1	4.7	25.6	5.3	6.8	8.3	5.1	4.5
性別	男性	978	14.5	8.0	6.5	17.8	10.2	7.6	38.3	8.9	10.0	13.5	5.9	3.1
	女性	834	18.7	5.5	13.2	4.7	3.5	1.2	10.6	1.2	3.2	2.0	4.1	6.2
高校進路 区分別	超進学校・進学校	1,455	16.6	6.9	9.6	12.0	7.1	4.8	25.4	5.2	6.6	8.2	5.4	4.5
	中堅校	371	24.1	10.1	14.0	17.4	10.4	7.0	37.0	7.5	9.6	12.0	7.9	6.5
	多様校	0	16.2	6.2	10.0	10.8	6.7	4.0	26.1	5.9	7.8	8.6	3.8	4.6
在籍 コース別	文系クラス(文系コース)	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	理系クラス(理系コース)	1,730	16.4	6.5	9.9	11.8	7.2	4.6	25.8	5.4	6.8	8.4	5.3	4.6
	コース選択はない	28	14.3	10.7	3.6	14.3	10.7	3.6	28.6	3.6	21.4	3.6	0.0	0.0
	その他	17	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9
希望進路別	国公立大学に進学	1,624	16.9	7.1	9.8	12.6	7.6	5.0	26.4	5.7	6.5	8.7	5.5	4.9
	私立大学に進学	294	27.4	11.5	15.9	20.4	12.3	8.1	42.9	9.2	10.6	14.2	8.9	7.9
	短期大学に進学	84	17.0	6.1	10.9	6.5	4.4	2.0	17.7	2.7	4.8	5.8	4.4	5.1
	専門・就職・その他	227	5.0	1.8	3.2	1.9	1.3	0.6	5.2	0.8	1.4	1.7	1.3	1.5
興味学問 系統別	文学	96	16.7	7.3	9.4	15.6	10.4	5.2	12.5	2.1	7.3	2.1	1.0	8.3
	語学	48	16	7	9	15	10	5	12	2	7	2	1	8
	法学	21	20.8	4.2	16.7	10.4	6.3	4.2	8.3	4.2	2.1	2.1	0.0	8.3
	経済・経営・商学	65	10	2	8	5	3	2	4	2	1	1	0	4
	社会学	21	23.8	14.3	9.5	9.5	9.5	0.0	23.8	9.5	9.5	0.0	4.8	0.0
	国際関係学	65	5	3	2	2	2	0	5	2	2	0	1	0
	教員養成・教育学	186	10.8	7.7	3.1	12.3	7.7	4.6	41.5	7.7	18.6	4.6	10.8	4.6
	生活科学	180	7	5	2	8	5	3	27	5	12	3	7	3
	芸術学	107	4.8	4.8	0.0	19.0	14.3	4.8	38.1	0.0	19.0	0.0	19.0	4.8
	総合科学	43	1	1	0	4	3	1	8	0	4	0	4	1
	看護・保健学	563	20.0	7.7	12.3	3.1	0.0	3.1	16.9	3.1	3.1	6.2	4.6	7.7
	医・歯・薬学	441	3.3	5	8	2	0	2	11	2	2	4	3	5
	理学	508	14.0	7.5	6.5	22.0	19.4	2.7	19.4	4.8	5.4	5.4	3.8	5.4
	工学	757	26	14	12	41	36	5	36	9	10	10	7	10
農・水産学	254	12.2	3.9	6.3	1.7	1.7	0.0	5.8	0.0	2.2	1.7	1.7	7.8	
理系学部学科志望者 全体	1,826	22	7	15	3	3	0	10	0	4	3	3	14	
受験意向別 【理系】	受験したいと思う	858	10.3	3.7	6.5	8.4	3.7	4.7	35.5	12.1	15.0	4.7	3.7	4.7
	受験したいと思わない	968	11	4	7	9	4	5	38	13	16	5	4	5
受験意向別 【理系】	受験したいと思う	858	34.9	25.6	9.3	16.3	4.7	11.6	18.6	4.7	4.7	7.0	2.3	7.0
	受験したいと思わない	968	15	11	4	7	2	5	8	2	2	3	1	3
受験意向別 【理系】	受験したいと思う	858	19.4	3.7	15.6	3.4	1.6	1.8	8.0	1.1	2.5	2.8	1.6	5.2
	受験したいと思わない	968	10.9	2.1	8.8	1.9	0.9	1.0	4.5	0.6	1.4	1.6	0.9	2.9
受験意向別 【理系】	受験したいと思う	858	29.3	10.2	19.0	8.6	5.0	3.6	10.7	2.0	1.6	4.8	2.3	3.9
	受験したいと思わない	968	12.9	4.5	8.4	3.8	2.2	1.6	4.7	0.9	0.7	2.1	1.0	1.7
受験意向別 【理系】	受験したいと思う	858	23.0	14.2	10.6	27.2	18.7	8.5	27.2	7.3	6.9	9.1	3.9	3.9
	受験したいと思わない	968	12.7	7.2	5.5	13.8	9.5	4.3	13.8	3.7	3.5	4.6	2.0	2.0
受験意向別 【理系】	受験したいと思う	858	14.9	9.4	5.5	16.8	7.7	9.1	54.7	11.9	13.1	18.5	11.2	1.7
	受験したいと思わない	968	11.3	7.1	4.2	12.7	5.8	6.9	41.4	9.0	9.9	14.0	8.5	1.3
受験意向別 【理系】	受験したいと思う	858	9.1	3.1	5.9	2.4	2.0	0.4	10.6	2.0	2.0	3.1	3.5	18.5
	受験したいと思わない	968	2.3	0.8	1.5	0.6	0.5	0.1	2.7	0.5	0.5	0.8	0.9	4.7

岩手大学に関するアンケート

岩手大学では2016年4月より、学部・学科を変更することを構想しています。
 このアンケートは、高校生のみさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、
 岩手大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。
 このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定する
 ことは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。
 ※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

※このアンケートは、以下の条件を満たす方のみ参加いただけます。

1. 岩手県内の高校2年生の方です。
2. 岩手大学に入学希望の方です。
3. 岩手大学に入学希望の方です。
4. 岩手大学に入学希望の方です。

個人情報

性別 男性 女性

学年 1年生 2年生 3年生

高校所在地 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長門県 熊本県 大分県 鹿児島県 沖縄県

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	1. 男性	2. 女性	学年 (1つに○)	1. 1年生	2. 2年生	3. 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [_____] 郡・道・府・県			国立・公立・私立 (←1つに○) [_____] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	1. 文系クラス (文系コース)		3. コース選択はない			
	2. 理系クラス (理系コース)		4. その他(具体的に: _____)			

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
 以下の項目から、あてはまるものをすべてに○をつけてください。(いくつでも)

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|
| 1. 国公立大学に進学 | 3. 短期大学に進学 | 5. 就職 |
| 2. 私立大学に進学 | 4. 専門学校・専修学校に進学 | 6. その他(_____) |

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。
 以下の項目から、興味のある学問の系統すべてに○をつけてください。(いくつでも)
 (現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

- | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|------------------|
| 1. 文学
(心理学、考古学、知能学、
歴史学、哲学など含む) | 7. 教員養成・教育学 | 13. 理学 |
| 2. 語学(英語学など含む) | 8. 生活科学
(食物・栄養学、服飾学、
児童学など含む) | 14. 工学 |
| 3. 法学(政治学など含む) | 9. 芸術学(美術・デザイン、音楽など含む) | 15. 農・水産学 |
| 4. 経済・経営・商学 | 10. 総合科学 | 16. その他(_____) |
| 5. 社会学 | 11. 看護・保健学
(スポーツ科学など含む) | 17. まだ決まっていない |
| 6. 国際関係学 | 12. 医・歯・薬学 | |

■理系の学部・学科を希望している方→ 次のページへ お進みください。

■文系の学部・学科を希望している方→ 4ページ目へ お進みください。

岩手県内の高校2年生へのアンケート調査票 (2/3)

このページは、理系の学部・学科を希望している方のみが答えるページです。

◆岩手大学「理工学部(仮称、設置構想中)」「農学部」についてお聞きします。

岩手大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる平成28年(2016年)4月に、
新しく「理工学部(仮称)」を創設することを構想しています。
あわせて「農学部」は4課程1学科から6学科へ変更することを構想しています。

※ここからは、アンケートに同封している資料の
学部・学科・コースの特徴を良く見てからお答えください。※

Q3. 岩手大学「理工学部(仮称、設置構想中)」「農学部」の各学部
それぞれの特色について、あなたほどの程度魅力を感じますか。

学部・課程・コース名だけにしましたので、
リーフレットをできるだけ読んでもらえるように変更しています。

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
	例: ○○である。	→ 1	②	3	4
理 工 学 部	A. 化学・生命理工学科 化学コース	→ 1	2	3	4
	B. 化学・生命理工学科 生命コース	→ 1	2	3	4
	C. 物理・材料理工学科 数理・物理コース	→ 1	2	3	4
	D. 物理・材料理工学科 マテリアルコース	→ 1	2	3	4
	E. システム創成工学科 電気電子通信コース	→ 1	2	3	4
	F. システム創成工学科 知能・メディア情報コース	→ 1	2	3	4
	G. システム創成工学科 機械科学コース	→ 1	2	3	4
	H. システム創成工学科 社会基盤・環境コース	→ 1	2	3	4
農 学 部	I. 農学生命科学科	→ 1	2	3	4
	J. 応用生物化学科	→ 1	2	3	4
	K. 森林科学科	→ 1	2	3	4
	L. 食料生産環境学科 地域デザイン学コース	→ 1	2	3	4
	M. 食料生産環境学科 食産業システム学コース	→ 1	2	3	4
	N. 食料生産環境学科 水産システム学コース	→ 1	2	3	4
	O. 動物科学科	→ 1	2	3	4
	P. 共同獣医学科	→ 1	2	3	4

岩手県外の高校2年生へのアンケート調査票 (1/2)



岩手大学の理工学部（構想）に関するアンケート
【大学理工系学部進学を希望する高校2年生対象】

岩手大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる平成28年4月に、工学部から理工学部への改組を構想しています。理工系の学部・学科を志望している高校2年生のみなさんの進路選択に対する考え方などをお伺いし、岩手大学の教育・研究を充実したものにするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答は、上記の目的のための統計資料としてのみ利用し、個人を特定することは一切ありません。「学部改組（構想中）」のお知らせをよく見ていただき、お答えください。ご協力をお願いいたします。

<p>記入方法 正しく読み取れる記入 → <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 正しく読み取れない記入 → <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>	
<p>■Q1 性別</p>	<p><input type="checkbox"/>男 <input type="checkbox"/>女</p>
<p>■Q2 現在のお住まいはどこですか</p>	<p><input type="checkbox"/>北海道 <input type="checkbox"/>青森 <input type="checkbox"/>岩手 <input type="checkbox"/>宮城 <input type="checkbox"/>秋田 <input type="checkbox"/>山形 <input type="checkbox"/>福島 <input type="checkbox"/>栃木 <input type="checkbox"/>静岡 <input type="checkbox"/>愛知 <input type="checkbox"/>他 <input type="text"/></p>
<p>■Q3 進学したい分野はどれですか (興味のある分野はどれですか)</p>	<p><input type="checkbox"/>理学 <input type="checkbox"/>工学 <input type="checkbox"/>農・水産学 <input type="checkbox"/>他</p>
<p>■Q4 大学で何を学びたいですか (何に興味がありますか) 3つまでの複数回答</p>	<p><input type="checkbox"/>化学 <input type="checkbox"/>生命 <input type="checkbox"/>物理 <input type="checkbox"/>数学 <input type="checkbox"/>材料 <input type="checkbox"/>電気電子 <input type="checkbox"/>コンピュータ <input type="checkbox"/>情報 <input type="checkbox"/>デザイン <input type="checkbox"/>機械 <input type="checkbox"/>環境 <input type="checkbox"/>資源 <input type="checkbox"/>建築 <input type="checkbox"/>土木 <input type="checkbox"/>他 <input type="text"/></p>
<p>■Q5 進学先を決定する際に重視することは何ですか 3つまでの複数回答</p>	<p><input type="checkbox"/>教育内容 <input type="checkbox"/>研究内容 <input type="checkbox"/>入試難易 <input type="checkbox"/>入試科目 <input type="checkbox"/>大学の所在地 <input type="checkbox"/>学費 <input type="checkbox"/>奨学金制度 <input type="checkbox"/>家族の意見 <input type="checkbox"/>先生の意見 <input type="checkbox"/>就職時の進路実績 <input type="checkbox"/>取得できる免許資格</p>
<p>■Q6 岩手大学を知っていますか</p>	<p><input type="checkbox"/>知っている <input type="checkbox"/>知らない</p>
<p>■Q7 あなたは岩手大学で構想中の理工学部に関心がありますか 1つ選んでください</p>	<p>非常にある ある 少しある あまりない ない わからない <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>■Q8 あなたは岩手大学で構想中の理工学部への進学を希望しますか 1つ選んでください</p>	<p>進学を希望する 一応進学を考慮する 受験先の候補の一つとして考える 考えない わからない <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>

裏面もご記入ください。

岩手県外の高校2年生へのアンケート調査票 (2/2)



■Q9 あなたは構想中の「化学・生命理工学科」に関心がありますか 一つ選んでください	非常にある	ある	少しある	あまりない	ない	わからない
	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>	6 <input type="checkbox"/>

■Q10 Q9で1~3を選んだ方にお聞きします。次のどのコースに関心がありますか。関心の高いコースの順に1~2の番号を選んで下さい	1番目に関心がある		2番目に関心がある	
	化学コース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>
生命コース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	

■Q11 あなたは構想中の「物理・材料理工学科」に関心がありますか 一つ選んで下さい	非常にある	ある	少しある	あまりない	ない	わからない
	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>	6 <input type="checkbox"/>

■Q12 Q11で1~3を選んだ方にお聞きします。次のどのコースに関心がありますか。関心の高いコースの順に1~2の番号を選んで下さい	1番目に関心がある		2番目に関心がある	
	数理・物理コース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>
マテリアルコース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	

■Q13 あなたは構想中の「システム創成工学科」に関心がありますか 一つ選んで下さい	非常にある	ある	少しある	あまりない	ない	わからない
	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>	6 <input type="checkbox"/>

■Q14 Q13で1~3を選んだ方にお聞きします。次のどのコースに関心がありますか。関心の高いコースの順に1~2~3~4の番号を選んで下さい	1番目に関心がある		2番目に関心がある		3番目に関心がある		4番目に関心がある	
	電気電子通信コース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
知能・メディア情報コース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	
機械科学コース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	
社会基盤・環境コース	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	

2016.4

WE
WILL
CHANGE!

学部新設・改組（構想中）の
お知らせ ※学部・学科・課程・コース名および計画内容は、予定であり変更があります。

アンケートへの
ご協力をお願い
いたします。

国立大学法人 岩手大学

岩手の「大地」と「ひと」とともに、2016年4月、岩手大学は学部・学科の再編を予定しています。



アンケートへのご協力をお願いいたします！

学部改組 (構想中) のお知らせ
岩手県・岩手・宮城の3県にわたる調査結果を踏まえ、2025年度から実施される予定です。

平成28年4月 工学部 から 理工学部へ改組予定

国立大学法人 岩手大学

ー 岩手大学工学部は、大きく生まれ変わる予定です。ー

学部改組の経緯

IP8規格やヒコクワと同等の高度なコア技術やコア技術の活用、製造・開発・運用・保守、ロボット技術、モノづくり、先端製造業が理工学分野の発展を促している。岩手大学工学部は、工学部改組による高度なコア技術の活用を推進し、先端製造業が理工学分野の発展を促している。岩手大学工学部は、工学部改組による高度なコア技術の活用を推進し、先端製造業が理工学分野の発展を促している。

学部改組のポイント

- 工学と関連のある工学分野に理工学分野を加え、基礎から応用までの幅広い工学領域をカバーする。
- 専門の高度化と先端製造業の発展を促す。

初年度人材

- 理工学分野の高度化と先端製造業の発展を促す。
- 工学と関連のある工学分野に理工学分野を加え、基礎から応用までの幅広い工学領域をカバーする。
- 専門の高度化と先端製造業の発展を促す。

色川情報

工学部 400

- 応用化学・生命工学科 [F3]
- マテリアル工学科 [G4]
- 電気電子・情報システム工学科 [D90]
- 情報システム工学科 [D6]
- 社会情報工学科 [D6]

↑

理工学部 400

- 化学・生命理工学科 [D6]
- 工学部改組コース
- 物理・材料理工学科 [D6]
- 工学部改組コース
- システム情報工学科 [D6]
- 情報システム工学科 [D6]
- 電気電子・情報システム工学科 [D6]
- 社会情報工学科 [D6]

3学部5コースの併合により、2つの情報学部コースも併合

工学と理学の融合により、特色ある教育研究を展開。

化学・生命理工学科

学科の特徴
 理学の三柱である化学・生物分野の基礎を身に付け、化学・生命現象に関する専門的知識と工学的な応用開発について学びます。
【指定される道路】
 大学院進学、化成品、化学プラント・エレクトロニクス・食品・医薬品等の製造業、環境・社会情報技術等の製造業、調査、地方公務員、運輸系研究開発 ほか

化学コース
 現代化学の基礎知識と応用力を学び、さらに、人と環境に優しい新しい化学技術の研究開発を通して、機能性物質の創製、資源・エネルギーの効率的利用および地球環境の保全に貢献します。

生命コース
 物理、化学等の理工学分野の基礎的知識と化学・工学等の応用的知識を総合的に学び、生命現象の高度な応用の開発に取り組み、医薬品や医療機器開発などの先端技術開発に貢献します。

物理・材料理工学科

学科の特徴
 自然科学の基礎となる物理・数学を身に付け、様々な物質・材料 (マテリアル) に関する専門的知識と工学的な応用開発について学びます。
【指定される道路】
 大学院進学、材料・半導体・機械・電子部品・自動車等の製造業、IT製造業、調査、地方公務員、運輸系研究開発 ほか

数理・物理コース
 自然界の法則を探求する現代物理学と科学の基礎である数学を学び、関連する理工学分野の発展に貢献します。

マテリアルコース
 新機能材料、先端生産プロセス、材料リサイクル技術の開発を目指し、材料工学の専門的知識と工学的な応用開発を学びます。

システム創成理工学科

学科の特徴
 工学の基礎となる数学・物理・化学を身に付け、生産・開発・製造・設計・情報・通信・社会・環境等のシステムの開発に関する専門的知識と技術を学びます。
【指定される道路】
 大学院進学、電子部品・電気機器・情報通信・ソフトウェア・自動車・電力・ロボット・航空関連等の企業、運輸系、建設業、ソフトウェア開発、調査、地方公務員、運輸系研究開発 ほか

電気電子通信コース
 電気・電子・通信に関する基礎的知識と応用力を備え、現代産業社会を支える電気・電子・通信分野で活躍できる技術者の育成をめざし、通信・電子システム、電子デバイス、電気エネルギーの各分野について学びます。

知能・メテア情報コース
 コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識とともに、工業製品や社会の知能化に貢献する知能情報工学分野と、社会や文化の発展に貢献するメテア情報工学分野の専門的知識と技術を学びます。

環境科学コース
 社会が必要とする高度な環境システムの開発・設計・製造の分野で技術者として活躍できるように、環境工学に関する基礎学力を身に付け、航空宇宙、バイオ・ロボティクス、システムデザイン等の各分野で実践能力を養います。

社会基礎・環境コース
 「安全・安心な社会の構築」と「人と環境にやさしい持続可能な社会の創出」を目指す技術者・研究者の育成をめざし、環境科学、建設工学、防災工学の各分野について学びます。

資料6 3年次編入学試験状況（過去5年間及び改組前1年間）

岩手大学工学部編入学状況

学科名	入学定員	平成22年度				
		志願者数	合格者	入学者数	志願倍率	定員充足率
応用化学科	20	4	0	0	2.6	115.0%
材料物性工学科		4	3	3		
電気電子工学科		18	8	7		
機械工学科		11	6	6		
建設環境工学科		5	3	2		
情報システム工学科		5	2	1		
福祉システム工学科		4	4	4		
合計	20	51	26	23	2.6	115.0%

学科名	入学定員	平成23年度					平成24年度					平成25年度				
		志願者数	合格者	入学者数	志願倍率	定員充足率	志願者数	合格者	入学者数	志願倍率	定員充足率	志願者数	合格者	入学者数	志願倍率	定員充足率
応用化学・生命工学科	20	1	0	0	2.0	60.0%	2	0	0	1.9	95.0%	2	1	1	1.5	55.0%
マテリアル工学科		3	1	1			5	4	4			3	2	2		
電気電子・情報システム工学科		24	7	6			22	11	10			16	10	4		
機械システム工学科		5	2	2			4	3	3			7	5	3		
社会環境工学科		6	3	3			5	3	2			1	1	1		
合計	20	39	13	12	2.0	60.0%	38	21	19	1.9	95.0%	29	19	11	1.5	55.0%

学科名	入学定員	平成26年度					平成27年度				
		志願者数	合格者	入学者数	志願倍率	定員充足率	志願者数	合格者	入学者数	志願倍率	定員充足率
応用化学・生命工学科	20	3	2	0	2.6	80.0%	4	2	2.8		
マテリアル工学科		2	1	1			2	1			
電気電子・情報システム工学科		38	20	12			21	13			
機械システム工学科		5	4	3			12	4			
社会環境工学科		3	1	0			16	1			
合計	20	51	28	16	2.6	80.0%	55	21	2.8		

※数値は、一般入試と推薦入試をあわせた数である。

資料7 過去5年間のオープンキャンパス参加者数

岩手大学オープンキャンパス見学状況

年度	平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	夏	秋	計	夏	秋	計	夏	秋	計	夏	秋	計	夏	秋	計
総合案内	4,004	2,350	6,354	4,345	2,164	6,509	4,510	1,922	6,432	5,096	1,728	6,824	5,045	1,767	6,812
人文社会科学部	1,772	593	2,365	1,550	680	2,230	1,850	650	2,500	2,180	652	2,832	2,000	510	2,510
教育学部	1,500	700	2,200	1,483	812	2,295	1,770	670	2,440	1,945	452	2,397	1,900	531	2,431
工学部	1,410	1,030	2,440	1,602	900	2,502	1,900	800	2,700	1,970	740	2,710	1,940	880	2,820
農学部	1,400	730	2,130	1,293	622	1,915	1,500	600	2,100	1,500	431	1,931	1,598	519	2,117
学部計	6,082	3,053	9,135	5,928	3,014	8,942	7,020	2,720	9,740	7,595	2,275	9,870	7,438	2,440	9,878

岩手大学オープンキャンパス工学部イベント参加状況

年度	平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	夏	秋	計	夏	秋	計	夏	秋	計	夏	秋	計	夏	秋	計
学部概要説明会	320	140	460	288	89	377	345	171	516	376	162	538	447	259	706
ミニ講義	150	88	238	165	49	214	21	81	102	174	103	277	210	156	366
進路懇談会	18	11	29	17	6	23	21	17	38	21	21	21	23	23	23
スタンブラリー	240	320	560	265	106	371	141	141	141	180	180	180	84	84	84
学科説明会・相談会							366	149	515	401	95	496	401	88	489

資料8 岩手大学工学部招聘事業実施状況（過去5年間）

岩手大学工学部招聘事業実施状況（過去5年間）

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	
招聘校数	55	45	63	31	51	245	
招聘先 (県別)	岩手県		8	7		15	
	北海道	22	17	15	7	19	80
	青森県	9	8	14	4	8	43
	秋田県	4	6	7	1	1	19
	宮城県	5	4	5	3	7	24
	福島県				1	2	3
	栃木県			7	3	4	14
	愛知県	15	10	7	5	9	46
	静岡県					1	1

資料9 岩手大学工学部高校表敬訪問及び高校PR訪問の実施状況（過去5年間）

岩手大学工学部高校訪問実施状況（過去5年間）

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	
訪問校数	393	347	289	257	201	1,487	
訪問内容	表敬訪問	79	73	71	79	75	377
	PR訪問	314	274	218	178	126	1,110
訪問先（県別）	岩手県	59	55	53	34	35	236
	北海道	39	43	35	34	19	170
	青森県	44	38	30	21	19	152
	秋田県	32	27	22	22	23	126
	宮城県	55	46	40	35	30	206
	福島県	19	18	17	20	21	95
	山形県	17	10	12	8	11	58
	新潟県	5	3	3	5	8	24
	長野県		4			10	14
	東京都		1			2	3
	神奈川県					2	2
	埼玉県				13	9	22
	栃木県		1	17	17		35
	千葉県				17	1	18
	茨城県				8	4	12
	愛知県	59	55	28	23	4	169
	静岡県	64	46	32		3	145

資料 10 出前講義実施状況及び大学訪問対応状況（過去5年間）

岩手大学工学部出前授業実施状況（過去5年間）

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	
対応件数	39	39	35	39	43	195	
訪問校数	39	39	33	37	39	187	
受講生数 (延べ人数)	1,284	4,025	1,175	1,883	2,016	10,383	
対応教員数 (延べ人数)	44	51	45	53	55	248	
訪問校 (県別)	岩手県	14	16	14	12	15	71
	北海道	3	5	4	3	3	18
	青森県	7	7	5	6	6	31
	秋田県	4	3	1	2	4	14
	宮城県	9	5	5	8	7	34
	福島県	1	1	1	1	1	5
	新潟県		1	1	1		3
	栃木県				2	1	3
	千葉県					1	1
	愛知県	1		1	1	1	4
	静岡県		1	1			2
	大分県				1		1

岩手大学工学部大学見学実施状況（過去5年間）

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	
対応件数	34	32	22	32	20	140	
受入校数	31	32	22	31	20	136	
受入生徒数 (延べ人数)	720	1,060	720	1,042	849	4,391	
対応教員数 (延べ人数)	76	75	45	89	89	374	
受入校 (県別)	岩手県	20	17	13	14	11	75
	北海道						0
	青森県	5	6	3	7	5	26
	秋田県	2	1	3	3		9
	宮城県	3	7	3	7	4	24
	福島県		1				1
	茨城県	1					1